愛國婦人會機關

愛國婦人

每月十日廿五日發行

（定價）一枚參錢一ヶ月分六錢三ヶ月拾八錢半年分參拾六錢壹ヶ年分七拾貳錢全國無遞送料郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麹町區下二番町三十七番地　大日本女學會内　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社説

武人政府に望む

今日我國の政府に於て、總理大臣を始めとし、武人にして内閣員たるものが、方に四人になッた。それに就いて、我が政界は、武人跋扈の弊に堪へないであらうとて、世間に種々心配を始めた、中には大に激越の言を爲す者さへある。固より戰捷後に、武人の跋扈したとは、古今の史上に見る所で、我國に於ても、往古天武天皇壬申の亂後に於ける有樣を始めとし、其例が無いではない。併しながら、今日我國に於て、之を心配するは所謂杞人の憂であらう。否必ず杞憂に屬せしめんとを切望する。

我國今日の武人は、實に宇内に卓越せる武人である。其卓越せる所以は、操練の熟達にあるか、兵學の進歩にあるか、抑も亦兵器の精鋭にあるか、蓋し是等の諸點は、未だ英佛獨を凌駕する迄には到るまい。されば、卓越せる點は那邊にあるか、即ち武人の精神に存在するのである。其一身を國家の犧牲に供へ、一點の野心なき澹泊快濶なる忠君愛國の熱誠は、即ち我が武人の特色にして、萬國に比類なく、宇内に卓越せる所以である。我が武人は實に、新る誠實眞率なる武人である。此武人をして國政を執らしむるも、決して世人が心配する樣に、壓制專横暴虐等の弊を生ずる虞は無い筈である。

世間偏狹の徒を除くの外、國民は、悉く大に武人を信頼して居るものである。今試みに、今年度に於ける宇内諸强國の軍費を調査するに、英國は二十一億二千四百七十萬馬克は（馬克は我が國の四十八錢二厘八毛）米國は十四億八千二百六十萬馬克露國は十億八千二十萬馬克獨逸は九億八千五百十萬馬克佛國は九億二千七百二十萬馬克墺地利は四億八百八十萬馬克伊太利は二億五千二百八十萬馬克日本は二億一千八百五十万馬克を支出すべし。之を人口に割付け一人の負擔費を計算せば英人は五十馬克佛人は二十四馬克米國人は十八馬克獨逸人は十七馬克伊太利人は十一馬克墺人は八馬克九日本人は八馬克八露人は七馬克三を出す割合である。此數字の上に於ては、日本人の負擔は甚だ輕い樣であるが、經濟家の調べに由ると日本人の財產は英米人の十分の一許であると云ふから英國人が五十馬克の負擔に對して日本人は五馬克だけの負擔で同じ割合である。然るに實際八馬克八の負擔は、歐米諸强國中で其比を見ざる大負擔である。我が國民が此重い負擔を甘んじて、軍費を納むる所以は、畢竟武人を厚く信頼するからである。斯くも國民の信頼の厚い、誠實眞率なる武人が、内閣に立つて國政を執る事は、内外多事の今日に當つて、最も必要であらう。此の渾濁暗澹たる世の中に公明正大なるものは、獨り武人の戰時に於ける働である。希くは此働きを政治の上にも推及ぼし、世の武人跋扈の心配をして杞憂に屬せしめんとを、吾人が切に望む所である。

本會相談役　伯爵世嗣　大谷光演　筆

女子と職業（承前）

文學士　下田次郎

倫敦では女の方が公衆に對する禮儀が缺けて居る事が一般の經驗である、公衆よりの苦情は女の方に澤山ある、或る局長などは、之れが爲めに女子を雇ふとを拒んだ事もある、併し之れは畢竟公衆のやり方が惡いからであるかも知れぬ、地方の局では、前に申す通り、女は一般に丁寧な事は明瞭である。

次に郵便局に於ては、女子の給料は男子に比して殆んど四分の一程安い、之れは女子の使用上に種々な不利益であるからである。第一に病氣で缺勤が多い、第二に夜業が出來ぬ、此夜業が出來ぬは餘程困るので、仕事の大部分集まるは實際夜である、第三には時間以外の仕事をさす事が出來ぬ、其他祭日等に女子を使ふ事が出來ぬ、第四には女子斗り雇ふ局では盜賊が這入る取締の爲めに、必ず男子の番人を置く必要がある、第五には地方の局では便所を二樣に作らねばならぬ、其費用と場所とがないと云ふ不便もある、此最後の理由が、他の理由よりも一層地方の郵便局で女を使ふ事に對して、不可とする理由の大なるものである。

又或る人の經驗によると、女を使ふ事を好むのは、其給料の安いと云ふよりは、使ひよいと云ふ事と、同盟休業する事が少ないから、夫れて女を使ふことが屢々あると云うて居る。此人の說によると、女の給料の低いのは主として女は仕事の分量及性質に於て常に劣ッて居る、故に毎時も使ふ方に取ッては、男子の方が利益が多いからであると云うて居る。

以上は英國に於て經驗ある人々の說であるが、日本に於ては、女子の職業に就て未だ十分の經驗がないから、其經驗談を聞く事も少ない譯でありますが、女子が職業に從事する事に付ては、女子の研究上非常に必要な事でありますから、日本に於ても女子を使用して經驗のある人々は、其經驗した有樣を公示せられて、斯道研究の資に供せられん事を希望に堪へませぬ。（をはり）

松下納涼　評議員　子爵夫人　本多延子

夏衣風ひやゝかにかよひきて
　暑さわするゝ松の下かげ

夜納涼　同

遠近にみゆるもすゞし夕まぐれ
　戶さゝぬ宿のともし火のかげ

夏海　同

雲はらふ風こゝちよき夏の海に
　みるめ涼しきおきの漁火

愛國婦人てふ文字を頭に置きて
奥村五百子刀自をよめる
愛知支部　幹事　名取照子

○愛しみ博き心のこのまとな
　りしも君がいさをなりけり
○國の爲はた人の爲ひと筋に
　おもひいる矢を君ぞ貫く
○婦てふ名こそはおへどますらをに
　露おとらじな君かいさをは
○人みなのかゝみとなりて老いながら
　猶世につくす君ぞたふとき

常磐　會員　兵庫　河邊とせ子

いちしるく名におふ松の常磐木も
　堪へすや雪に下折にけん

祇王　同

野邊の草かれゆく秋のあはれさを
　我が身ひとつにおもひしめけん

孟母　同

織機の糸はたちても己が子を
　敎ふるすぢは亂れざりけり

巴　同

大木曾の荒山おろし音絶えて
　わびしく殘る谷の白雪

小督局　同

世はなれし嵯峨野の奥の草の庵も
　さやかに照らす雲の上の月

勾當内侍　同

垣間見し人のこころもしら眞弓
　ひきにし琴のしらべ床しも

小野小町　同

かくはしき言葉の花は幾千代も
　世にうつろはぬ色にざりける

電話番町壹千三百三十番

◎本號附錄には評議員男爵夫人松平須磨子宮崎支部幹事長岩男飛佐野子京都支部幹事廣瀨みや子の肖像を掲ぐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

◎支那婦人

在清國　其鹿生

本誌は愛國婦人と云ふ四字の表題なるを以て、我輩は矢張此の四字の題を眞似て、支那婦人と云ふ題下に於て、少しく支那婦人の一般の狀況、即ち風習性質等を通信せんと欲す、素より本通信の如きは、本會の主旨に反するかも知らざれども、建國四千餘年の老大國にてありながら、未だ文明の空氣を吸收せざる支那婦人は、如何に憫然なるかを、世の所謂良妻賢母諸氏に知らしめ、以て此等憫然なる支那婦人を救濟するの方法を研究せられんことを希望すればなり、日本の風習等と比較するときは、非常なる相違にて或は意外のこと多かるへし。

○支那の婦人を大別すれば二種となる、滿人漢人是なり。此の二者は全然其の風習を異にせり、我輩の現在居住するは、昔日の所謂晉の都にして、漢の部に屬し、滿人は甚だ少し、故に主に漢人の風習を通報せんと欲す。併し支那婦人のことを云へば、第一に胸中に表はるゝは、

○纒足 なり。纒足は陳の後主(陳の最後の皇帝)の嬪に、窅娘と稱するものあり、此人始めて纒足を爲し、爾來以て今日の如く一般の風習となりたるなり、脚の小なるを以て美人の第一の資格と爲す、故に競ふて脚を小ならしめんとす、女子甫めて五六歳に至れば、其母は脚の指を下方に折り、(母指のみは折らず)布を以て緊捆す、從ッて身躰他の部分は生長するも、脚のみは發達せず。脚の最小なるものに在りては、踵より母指の先端まで二寸五六分のものありと云ふ。勿論此輩に在りては、自己獨立して歩行すること能はず、必ず杖を持つて若くは他人の肩を擁す、此の如く自己獨立して歩行し能はざる程の女は、餘程の美人と知るべし。脚の少しく大にして、能く自己獨立して歩行する輩に在りても、兩手及び肩を振りて歩行す、假令は右の脚を前進するときは、右肩及び右手を前に振り、左脚を前進するときは、左肩及び左手を前に振る、即ち肩と手と脚との調子を取り、僅かに轉倒せずして前進し得るなり。之を搖擺搖擺と稱す。完全なる身躰を殊更に不具者と爲して以て喜ふ、彼等の愚なる寧ろ憫むべし、而して此の小なる脚は之を洗ふときは、大となるを以て、彼等は大に之を好まず故に、

○入湯 至ッて少し、子供生後七日間は必ず毎日入湯せしむるも、八日以後は決して入湯せしめず、十二三歳に至ッて一年に一回、夏時入湯す、此の慣習は上下を通じて同一なりとす、日本人の所謂日風呂の人から見ると、或は虚報ならんとの疑あるべきも、決して虚報にあらざるなり。要するに、彼等は入湯を以て非常に億劫がるなり、顔は一日に一回づゝ必ず洗ふを常とす、而して毎朝、

○顔に白粉を塗り、兩頰に生臙脂を赤く付けるなり。是れか女の所謂おしまひなり、此白粉は非常に多くして、滿州人の如きは、特に甚だし、滿州人の風習として化したる後は笑ふことを禁すると云ふ。其の故は笑ふときは、顔面の白粉剝落するを以てなり。白粉の厚きと、白壁の如し。從ッて笑ふときは、割目を生じて、剝落するなり。「生臙脂」の頰紅は、極めて赤く付けるものにして、白き部分は極白く赤き部分は極赤くするなり。

○衣服 は日本に比すれば、總ての點に於て卓越せり、其製法は美麗にして且つ上品なり。日本の如く長き、而も無用なる袖を有せず、其の大さも各自の身躰に合はして作るが故に、ぞろ〳〵引摺る樣なることなく、從つて腰のところにかゝへを爲すを要せず、亦背後に大なるお荷物的の帶を結ばず、平常股引を穿ち居るを以て冷の爲めに、子宮病等を引起すことなし。要するに婦人服は實用の點からしても、衞生の點からしても、甚だ上等なり、我輩は日本人が支那婦人服を折衷したる衣服を着せんことを希望す、若し本誌を御覽の夫人にして、衣服の仕立方等を研究せんとせらるゝ人あらば、本誌に投書せらるれは、私は喜んで回答して詳細に説明すべし、然れども其の入湯を欲せさると一般に、

○衣服の洗濯を爲さす、一度新調の衣服を穿ちたるときは、其の破るゝまて決して洗濯せす、破れたれば之を捨つ、故に上着は勿論、襯衣の如きも二三年間、一度も洗濯を爲さずに穿つか故に、上着は不潔にして、ぴか〳〵光りを發す、襯衣も白きものは垢の爲めに鼠色に變ぜり。彼等は平氣にて、之を穿てり、不潔を愛するが如く思はる、從ッて、

○住居 の如きも、同樣に不潔を免れさるなり、支那人は一般に太陽の光線を欲せさるの人物と見ゆ、就中婦人は最も光線を忌むが如し、故に家屋は總て暗黑に構造せられ、日本にて例せは金澤の士族の家屋を猶一層陰氣に暗くしたるが如し、婦人は此の暗黑家屋の最も奥に居住して運動することなく、極めて不活潑の生活を爲せり、室内は總て土間にして、椅子と机とを置き、其の傍に臥床ありて、臥床に上下するに靴のまゝなるを以て、臥床は土砂を以て滿されると知るべし、女子か家屋の極めて奥の方に生活するの理由は其の、

○他人に接するを欲せさるか爲めなり、支那婦人は其已婚と未婚とを論せず、他人殊に男子に接して言語を交ゆるを欲せす、從ッて品行は日本に比較すれは正しきか如し、是れ孔子の教の然らしむるものなるべし。元來支那は文學の國なるを以て、一般に學問は繁盛なる如く思惟せらるゝも、

○婦人の教育 は反對の事實を見る學問あるは男子に限られて、女子は全然無教育とす、支那四億の人口中五十人や百人位は少しく文字を解する人あるべきも、是れは却て何故に女子が學問を爲すかを怪しむ位とす、其の何故に女子の教育を爲さゝるかは、知らされども、或は女子は人類としての取扱を受けず、

○普通の貨物として取扱はるゝが其主要なる源因なるへし、今其の實例を示さんに、男子が女子を得るは皆金錢を以て買入るゝなり、妻を買ふを聘禮と云ひ、妾を買ふを身價と云ふ、恁の如く名目こそ異なれども、孰れも皆金錢を以て買入るゝなり、故に男子は牛馬或は雞等を賣買すると同一の考を有せり、亦七八歳の極貧者の女子を賣買せり、即ち之を買入れて下女として酷使す、此の下女を了頭と稱す、此了頭生長して十六七歳となれは、之を他人の妾或は女郎に賣渡すなり、故に妻妾了頭の三者は、顔と脚とに依りて價格に差あり、二十五兩位より三千兩位までとす、故に支那人は、

○女子を以て財産の一と爲す 日本人が有價證券若くは乘馬を有すると同樣なり、假令は二百兩にて買入れたる妻若くは妾ありとせんか、之を二百五十兩にて買ふ人あれば直に之を賣却して自分は更らに他の女を買入るゝなり、元來支那は貧國にして、多くの乞食あれとも、女の乞食は一人もあることなし、是れ女は男子の財産と等しければ、貧乏人ありて、乞食を爲さんとするの場合に陷りたるときは、先づ其の妻妾を賣りて當分生活し、其金錢の盡くる時に至りて初めて乞食となるなり、故に美人を妻となし居る人は金剛石入の指輪を持ッて居ると同じく醜女を妾となし居る人は硝石玉入の指輪を有すると同一なりとす、今次に、

○美人の資格 を述べん。

(一)脚小にして自己獨りにては歩行すること能はさること。
(二)瘠て居らざるべからず。
(三)顔は丸くして、上部廣く、下顎尖りたること。
(四)鼻すぢは能く通り、眉は三日月形なること。
(五)歩行のとき手を能く振ること。
(六)身長は高からざるべからず。
(七)白粉を非常に多く塗るを以て、顔色の黒白と麻子の有無を論せざるも、顔色は白くして麻子なきを喜ぶが如し。

美人の資格が日本から見ると、甚だ異なり居るを知る。

○婦人の職業 如何と云ふに、養蠶及び針仕事なる故に、上中下を論ぜず、養蠶及び裁縫は巧なりとす、此の巧なることは、日本人の及ぶところにあらず、而して貧乏人は支那靴の底をさすなり。其他彼等の娯樂、結婚、育兒法、或は迷信等通信すべき事柄は至ッて多きも、追々通信すること、し、此度は此の位にて擱筆す。(をはり)

みやび會員詠藻

○○觀艦式　徳島　尾方次子
大君のみそなはしますたひ毎にみいくさふねの數ぞまされる

、、、○同　岡山　坂田良子
なりよくもこゝにきにけり大君の御軍艦をみそなはす日に

、、、○軍艦をみて　東京　北岡みよ子
近つかんあたこそなけれみいくさのふねいさましく海に浮びて

、、、○同　長崎　高木坂子
外國のうへにたつべき日の本の御いつもみゆるいくさふねかな

、、、○同　大阪　酒井ゆき子
我か身も男の子なりせは軍艦のりていさをゝたてましものを

、、、○同　東京　樋口みい子
ならびたるみいくさ艦をみる時は勇む心ぞかきりしられぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

有村蓮子の傳

評議員　下田歌子

往昔より今に至るまで、何れの國にありても英雄俊傑は、多くは其母の賢且つ明なるによりて、生ずるものなりといへるが、實に其言の妄ならざるを知るに足るものあり。維新前後、各地に蹶出して國のために偉功を奏せし俊秀の輩が家庭を探知すれば、大抵皆其母の勝れたるを聞く、亦甚だ奇なりといへり。

爰に今揭ぐる所のものは、樞密顧問官正三位勳一等子爵海江田信義君が北堂の傳なり。

隼人の薩摩の國鹿兒島の藩士森本氏に女あり、蓮子と名づく。れん子幼くして父に別れ、母親の手一つに育くまれて人となりぬ。其當時は、うちひさす都の中にありてだに、女子に學問を敎ふるとはいと稀にして、搢紳名門の貴婦人すら、其修むる所は僅かに詠歌習字等にして、其他は遊藝手藝の類のみなりき。况んや本州を隔れたる、九州の果てなる薩摩のあたりの習俗には、女子は假名文字をだに學ばざるものさへあるほどなれば、眞名文字を書きまた文よみ物學びなどの如きは、殆ん皆無といひても可なりしならん。然るに蓮子は生れながらにして、深く文學の道を好み、資性また明智鋭敏にして、幼時屢々大人を驚かすの語を出せりき。さるからに、誰れ敎へねども、其家に藏する所の文卷を繰りひろげて拾ひ讀みし、且つ自づからに歌よみ習ひて、花の朝月の夕、ひそかに諷詠朗吟して、ひとり心を慰めたりき。さるに女子の學問は、なか〳〵に生意氣となり、高慢となりて然る可からぬものぞと、いひ思へる世のならはしは、この稀世の才女が志を妨げ、更に師につき人に求めて道を聞き敎を受くることを許さず。故に蓮子は母の傍にありて、苧績み、機織り、衣縫ふ事はものかは、洒掃割烹の業其他立ち働き、小間使の事にのみ追はれて、更に我が好める書開き見る暇もなけれど、人靜まりて後ひそかに、のこんの燭をかゝげて、石の上ふりにしあとを尋ね、曉の窓の白めるをまちわびては、耳あたらしき歌の卷どもをひもとき、ひとり學び、ひとり修めて、よく字義を解し、よく歌を詠ずるに至れり。げに桃李ものいはねども下自ら蹊をなす。錐は嚢中に藏むれども豈其尖のあらはれざるを得んや。蓮子が擧止は、其當時にありても、自ら人の目を止むる所となりもやしけん、或る人蓮子が數多の女兒等と打ち混り遊べるさまを見て詠みける歌に、

かくれてもかくれざりけり夏草の
しげみがなかの姫百合の花　（つゞく）

童話

強い太郎さん

香洲生

太郎さんはまだ漸う五歳といふ小い男の子でございましたが、お父さんやお母さんのおッしやるとを、よく聞きわけて、惡いことをしない、まことにすなほな子でございました。

此かはゆらしい太郎さんは、丁度まだ梅の花が少し殘ッてをる頃に、ふとお風をひいて臥せりました。始のうちは大したともない樣でございましたが、だん〳〵熱が高くなりまして、とう〳〵終に肋膜炎とかいふ重い病氣になりました。

お父さんやお母さんを始め、婆やから召使のもの迄、家中みんな大心配で、お母さんは、ろくに御飯も召上がらないで、婆やと一緒に終始太郎さんの側についてゐて、看病をなさいました。

併し太郎さんはよい子でございますから、どんな苦いお藥でも、いやだなどといッて皆さんを困らせる樣なとはなく、散藥や水藥のどんな服み難いのでも精出していたゞきました。それからお乳や卵には飽いて、外に自分で喰べたいと思つてゐるものがございましても、お醫者さんが、それは喰べてはいけないと仰有れば、おッしやッた通りに、喰べないで怺へる樣に致しましたから、次第〳〵にお加減がよくなりまして、お醫者さんも、もうこれなら大丈夫だとおッしやる樣になりました。

それで父さんも母さんも、やッと御安心なさいまして、お母さんは其晩はじめて、よくお休みになッたといふとでございます。

それから追々日が經ちます内に、太郎さんの病氣はすッかりよくなりまして、とう〳〵、お藥をいたゞかないでもよい樣になりました。

太郎さんが、斯樣に永らく病氣でねてゐました間に、梅は勿論櫻の花も桃の花も、みんな散ッてしまひましたので、太郎さんが起きて外へ出られる樣になりました時には、何方を見ても靑葉ばかりでございました。さうしてまた、其梅や櫻は、みな靑い實になつてをるのでございました。

併しこんな病氣は、よくなッた後が大事でございますから、お醫者さんは、當分太郎さんを何處か海邊の樣な暖い處へ遣ッておくがよいと仰有いました。

ところが先頃からお見舞に來てゐらッした伯母さんのお家は、丁度海に近うございますので、『それなら當分太郎さんを私が預る』と仰有ッてをばさんはお歸宅の時に、婆やと一緒に、太郎さんを連れておいでになりました。

をばさんのお家のある處は、小高い山の樣な處で、二三丁出ればすぐ海でございまして、お庭も廣く日當りのまことによいお家でございました。それでお座敷の内からも海が見えますので、今迄町中の家の多い處にばかりをりました太郎さんの爲には、この廣々とした海の景色や、又田舍の樣子が誠に珍しうございますので、日に增し氣分もよくなりました。

また此廣いお庭には種々の樹が植わッてをりまして、外に梅だの櫻だの杏だのいふ樣な果物の樹も澤山ございましたが、太郎さんが此家へ參りましてから、大分日が經ちますので、其樣な果物も早やだん〳〵熟して參りました。

併しよく熟さない果物は誰でも喰べてはいけないのて、まして太郎さんは、病氣がよくなッたばかりでございますから、尚更氣を注けなければならないのでございます。それで、梅でも杏でもまだ熟さない靑いのを喰べたり、又は落ちてゐるのを拾ッたりしてはならないといふとを、伯母さんも婆やも、よく〳〵太郎さんに言ひ聞かしておきました。

或日太郎さんは、獨でお庭の中で運動してゐましたが、杏の樹の下の處へ來る度に、太郎さんは自分の手をうしろへまはしまして、

『いけない』、いけない』、と獨語をいッて、直ぐ其處を避けて通りました。

をばさんは丁度其時これをお座敷からごらんになりまして、變な事だとお思ひなすッて、庭下駄をはいて其處へ行ッて御覽になりましたところが、うまさうに熟した大きな杏實が一つ落ちてをりました。

其時太郎さんはお庭の彼方の方へ行つてゐましたが、今をばさんが其杏の果の處にゐらッしやるのを見ましたから、大きな聲で、

『僕、それに觸りはしなくッてよ。』

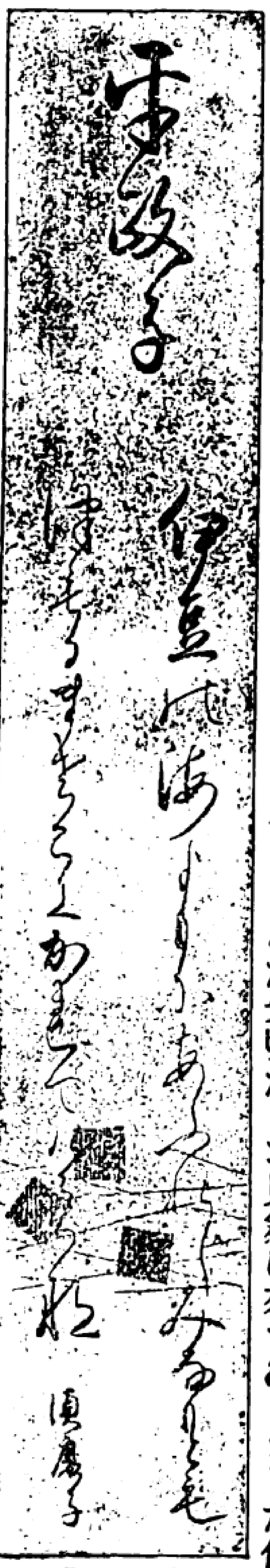
と申しました。

そこで、をばさんも始て、太郎さんが先刻自分の手を後へ廻した理由がお分りになりましたので、大層感心なさいまして、よい賢い子だと言ッて、御褒美に面白い繪本だの玩具だのを買つておやりになりました。

それから暫くして、太郎さんも愈よ元の通りの丈夫な躰になりまして、自分の家へ歸りました時に、婆やが此話をお父さんとお母さんに申し上げましたところ、お二人もまた、大變太郎さんをお褒めになりました。』

皆さんは何うお思ひなさいますか。まだ五歳の子供でありながら、この樣な氣象があるとは、私どもは太郎さんは餘ほどえらい人だと思ひます。重い病氣がよくなつたのも、お醫者さんや、お母さんたちのお言葉を守つて、わがまゝな心を押へたからでございませう。

世間には角力などで他の人に勝ッて、强いと自慢してゐる人がございますが、これは唯力が强いので、本當に强い人といふのは、自分で自分の惡い心に勝つ人のとでございます。（をはり）



評議員　嘉納須磨子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

家事衞生　食物（つゞき）

嗜好品　身躰榮養の爲に用ゐる食物の外に、嗜好品なるものあり、酒・茶・煙草是れなり、此三種に就いて順次說明すべし。

酒　酒は世界中開明の國に於ては、何處にても用ゐらる、唯未開野蠻の國にては、其釀造を知らざるが故に、之れなき處あれども、之を嗜む情は異ならず、蝦夷人・臺灣人などの大に之を好むを見ても明なり。

酒の利害　酒は害のみにて少しも利なきものかと云ふに、生理的衞生上身躰の益となるとも亦少なからず、左に其利害を列擧せん。

▲酒の利○酒を飮めば酒精が血中に吸收せられ、神經の中樞を刺激し、爲に憂鬱を忘れ、爽快を感ずるを通常とす。(但し人の性質に由て、醉うて泣くあり、怒るあり、笑ふありて、一樣ならず。)○酒精が心臟を刺激する爲に脈膊を進め、筋肉の運動を盛にす○緒方博士の試驗に由り、之を適度に用ゐれば消化を助くる効用あり。

▲酒の害○泡盛ナホシなど濃厚なる酒は云ふ迄もなく、普通の酒にても量を過せば、飮食の消化を妨げ、胃加答見を起す、飮酒家に留飮或は疝癪を患ふる者多きを以て知るべし。且つ飮酒家が菓子類の如き甘き物を食し得ざるは、其胃已に衰へて甘き物を消化する力なく、忽ち酸敗して不愉快を感ずるが爲なり○飮酒の量を過ごす時は、肝臟腎臟等に病を發し、又神經系を犯さるゝこと多し、殊に田舍の新酒はフーゼル油と稱する毒物多きが故に、神系を害すると甚し、其飮酒後に頭痛し、又は宿醉に惱むに由って知るべし○一度酒に醉ふ時は、筋肉の力衰へ、眠氣を催ほすものなれば、常に多量に用ゐるに於ては、永久筋肉神經の衰弱を來すべし、然るに是等の不快は飮酒に由って一時之を拂ひ得るを以て、酒癖いよ〳〵募りて遂に不治の病を得るに至る、加之、其害は延ひて子孫にも及ぶなり。

飮酒の量　衞生上用ゐて妨げなき酒の分量は甚だ定め難けれども、近比瑞西の醫師にて研究の上之を定めたるものあり、即ち一日に五十乃至六十瓦の酒精は人躰に害無しと。されば之を以て推せば西洋の麥酒は一日に凡そ九合まで、同じく葡萄酒は三合まで、日本酒は壹合五勺許は差支なき割合なり、從來一日に一合內外の酒を用ゐる人に、酒の害を受ける者少きを以ても、此研究のほゞ當れるを知るべし。

◎家計收支の實況

大阪市　愛讀者報知

每度皆樣方の家計收支拜見致し、慾服の外ありませぬ、私は經驗が少う御座いますゆゑ從って不經濟の點も多からうと思ひ、甚だ御恥かしき次第ながら御覽に入れます、何卒御遠慮なく、御批評を願ひます。

明治三十六年一ケ月分平均額

一家族六人　但し夫婦子供男二人(一人は哺乳兒)乳母下女各一人

收入高

一金參百拾四圓四拾九錢壹厘
內　金貳百六拾四圓四拾九錢壹厘　配當割當金一ケ月分
　　金五拾圓　一ケ月俸給高

支出高

一金百圓八拾參錢參厘

內譯

金拾七圓七拾八錢五厘	家賃點燈料
金五圓七拾五錢五厘	乳母給金小遣
金五圓貳拾壹錢八厘	娛樂費
金壹圓八拾七錢參厘	育兒費
金貳圓七拾錢貳厘	醫藥費
金貳拾貳圓四拾四錢七厘	臨時費
金六拾四錢五厘	新聞雜誌
金貳圓拾九錢九厘	雜費
金貳圓九拾七錢參厘	雜品費
金參圓拾九錢七厘	主人小遣
金貳圓六拾貳錢五厘	主婦小遣
金七圓參拾壹錢	被服費
金七圓五拾七錢八厘	白米代
金參圓拾八錢八厘	酒味淋酢
金參圓參拾五錢	薪炭費
金壹圓八拾壹錢貳厘	味噌醬油代
金參圓九拾六錢五厘	魚類
金參圓參拾九錢壹厘	青物
金九拾錢	菓子
金七拾六錢	牛乳
金貳拾參錢七厘	砂糖
金貳拾七錢參厘	乾物類
金六拾五錢	交際費

殘金貳百拾參圓六拾五錢八厘

表中臨時費の多きに過るは、一月年賀の爲め上京せし往復費用を月々の平均に割當たるによる、賄費の內石油代無きは雜品費中に加へし故なり、下女給金なきは、昨年雇入の節一ケ年分前貸致せし故なり、主人事業上の都合に依り、當大阪に住居致してより知己も割合に少なく、從って交際費も少額にて相濟み候、長男は幼稚園にやり、其保育料は育兒費の內へ合算致し置候。

評　如何に大身代で收入が多額でも、支出が收入よりも超過して、收支不足を告ぐる家計の人は、富者とは申されまいと思ふ。之に反して少額の收入でも、收支餘裕ある家は、富家というて差支へないであらう。況や此家計の如く、收入豐にして、而も其三分の二以上剩餘を生ずるは、本誌に家計收支を掲げ始めてより、多く見ざる例である。殊に斯る裕福なる家計にも拘らず、主人たる人が僅に參圓許の小遣にて濟せらるゝは、記者の大に敬服する所である。政府の財政を始め、兎角不如意勝ちな日本に於て、斯樣に餘裕の綽々たる人あるは、頗る人意を強うすることである。

◎各地特殊の料理

(四〇)　茄子の佃煮　　名古屋市橘町　會員　某

茄子を丸のまゝザッと蒸しあげ、それを盆の上に載せ、蔕を切りよく〳〵水氣を搾りて鍋に入れ、醬油に少し砂糖を加へて入れ、又生姜を細く竪長く切りたるをも入れ、汁のなくなるまで煮つむるなり。さて之を三分ばかりに輪切にし、鉢に盛り、又生姜の細く切りたるをパラ〳〵とふりかけて用ゐるなり、一寸風情ありてよろし。

(四一)　鮑もどき　　埼玉縣會員　某　女　報

南瓜の瓢をとり出し、皮の堅き處を去り、薄く短冊に刻み、擂鉢に入れて鹽をふりよくもみて、水にて洗ひ堅くしぼりて丼に入れ、紫蘇の葉のきざみたるを交ぜ、三杯酢をかけ、暫くたちて用ゐれば味ひをかしく、殊に酒の下物に妙なり、此料理は下野の國鹽原の滑水谷といふ處の茶店の主人が發明せし珍味なりとぞ。わらは東京なる女學校に在りし程、或る女先生より敎はりしなり。南瓜は餘り十分に熟せざる靑きものが、此料理に適當なりとぞ、石決明の酢貝に髣髴たるふしあれば、女先生が斯く名づけられしと云ふ。

(四二)　初夢漬　　靜岡縣　愛讀女報知

一小茄子　百餘　一玄米　七合(炊きて飯として)　一麴　七合　一鹽　壹升

右四品交合せ、順に桶に漬け、中蓋をして輕く壓石を置き、桶に目張をして正月に至ッて明けるなり。

(四三)　石決明の貝燒　　神奈川縣三崎町　某　女

先づ石決明の肉を貝よりはなし、細かく切りて臟をつぶしたるに交ぜ、醬油味淋を加減して其貝殼にて煮て用ゐるなり。是れは春さきより夏にかけて拵へる料理にて多分は臟あらくして味ひよろしからず。

(四四)　美濃の五平餅　　岐阜縣惠那郡苗木町　會員　報

信州伊那の姉君から、其地の五平餅を報ぜられましたが、同し木曾路なる故か、私の地方にも五平餅といふ名物がございます、唯少々拵へ方が異ッて居りますから、蛇足ながら一寸申し上げます。

先づ最初に胡麻を程よく炒り砂糖を入れて摺り、それを醬油にてどろ〳〵に溶き、(餘り鹹き樣ならば少し水をさしてよし。)さて、常の如く飯を炊き、むれた處を擂木にてよくこね、蓋をして少時やすませ、斯くて團子の如に握り、冷却たのより段々に竹を平たくけづッた五寸許の串に刺し、一度火にかけて、うすく焦げる程に燒き、それに右の胡麻醬油をつけ、又少しあぶりて食きますのです。是れは主に女の好むもので、中々風味が宜しうございます、先比信州の姉君が申された如に、私の地方でも寒き比心安き人々打寄り、圍爐裏のくろで向うよりこちらへ、鐵の平たい渡し金をわたし、火を澤山におこし、主人が横座に居つて燒きながら、客にすゝめますのです。米と胡麻とで出來ますから、誠に輕便です、皆樣御試し遊ばせ。

(四五)　油玉　　東京府荏原郡大崎　辻　玉子

每度皆樣よりいろ〳〵珍らしき御料理を御敎へ下され有がたく御禮申し上げ候。就ては私も何かと存候へども、未だ經驗に乏しく恥入申し候、此油玉と申すは、或は特殊の料理にてはこれ無く、普通のものかも計り難く候へども、一寸異りたる仕方と存候まゝ、試みに申し上候。

先づ油揚に庖丁を横に入れ、小口より一分五厘位に切り、ざつとゆでてこぼし醬油・鰹節・味淋・砂糖にて汁の十分にしみる迄煮ぬき、鍋をおろしぎはに玉子をかけ、半熟位にて火よりおろしてむらし候、材料の割合は、油揚五枚に玉子二個位の割合に候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に、只管祈る所なり。

愛國婦人會記事

◎長崎支部發會式及總會

同會は去にし七月四日長崎市公園なる交親館（縣會議事堂）を以て式場及び會場に充て、午後二時開會、來集諸員一同式場に着席す。奏樂一曲の後、幹事松永勢以子幹事長に代り開會の詞を述ぶ、了て次に音樂隊　君が代を吹奏す。此間諸員敬禮、了て評議員松室琴子式場正面の高壇に進み、恭しく總裁殿下の御諭旨を奉讀し、幹事長荒川菊子答詞を朗讀す。次に幹事田代遊嘉子、岩倉會長の祝電を朗讀し、引續き來賓荒川知事、溝口高等女學校長の演説、長崎市長代理平田助役の祝詞、並に幹事數名の祝辭祝歌等ありて式を了る。當日來賓の重なるものは、知事、書記官、檢事長、檢事正等五拾有餘名にして、會員の出席せるもの百五拾餘名なりし。式後別室に於て參集諸員に茶菓を饗したるよし。當日の御諭旨を始め答辭祝辭祝歌を左に掲ぐ。

御諭旨

愛國婦人會長崎支部は、會員諸氏の盡力に依り、漸く隆盛に赴き、今日發會式を兼ね、總會を開くに至りしは、智惠子の深く喜ぶ處なり。今後一層勵精して擴張に勉め、益々斯會の發達せんことを望む。

答詞

愛國婦人會長崎支部發會式を兼ね、第一回總會を開くに當り、總裁殿下優渥なる諭旨を賜はり、支部の光榮之に過ぐるものなし。自今益々會員と共に勵みて、斯會の發達に勗め、令旨に背かざらんことを期す。

明治三十六年七月四日

愛國婦人會長崎支部幹事長　荒川菊子

祝詞

愛國婦人會長崎支部は茲に本日を卜し發會の式を擧げらる惟ふに軍人遺族慰藉の事は政府に於て既に其法を設けられ敢て間然する所なし然りと雖も死に報し恩に報ひんが爲め其遺族を救護し軍人をして内顧の憂を絶たしむるは亦た同胞の情愛として已むを得ざるものなり況んや情に脆く愛に深き所の婦人に於てをや愛國婦人會の起る其れ以へある哉長崎支部設置以來已に二年有餘を經過す冀くは自今益々隆盛に赴き以て帝國婦人の眞面目を現はさんことを聊か蕪辭を述へて發會式を祝す

明治三十六年七月四日　長崎市長代理　助役　平田諮

祝詞

嗚呼ありがたき御代の中、靈井の空をながむれば、上にさうさい妃殿下の、御光りいたゞきその下は、高きひくきのへだてなく、みくにをおもふあいこくの、こゝろはおなじ姉妹の、皇御國に生れ出し、をのこの君はくにのため、いざことあらむ其時は、外國までも過み行き、命をまとにきみのため、盡しまつらむことあれど、かよわき婦女の身をもつて、いかに心のはやるとも、國のまがきになることの、のぞみなき身のさればとて、むなしく過さば何をもて、御國につくすことあらん、こゝにあいこく婦人くわい、忠男無二の軍人を、いよ〳〵はげましなぐさむる、これぞみくにのおんために、女子たるものゝつとめとも、おもへばけふの發會式、此上なき目出たさ嬉しさよ、いざ同胞の姉君たち、ひかりかゞやく日の本に、生れ出てにし上からは、心のかぎり身の限り、ともにたゆまず朝夕に、つくしまつらむもろともに

愛國婦人會長崎支部幹事　三石葦子

祝詞

砲聲天に轟き硝煙空に漲る戰場に臨みて軍人の本分を全うし秋の霜に露の命消えをあらさふ武士の習ひばかり悲しきはあらず風薫々として衣手寒き夕まぐれ孤雁の行衛を望みつゝ寄邊なき身をかこてる彼等軍人の遺族ばかり世にあはれにいたましきは非ざるべし固より國家救助の道ありとも吾等同胞のまたいかでか空しう見過すべけむやとこゝに愛國婦人會の設立を見るに至れりそれよりひたすらにこれが救濟の道をひろうせむとて本縣にも其支部を設けらる以來日猶淺しといへども會務漸く整ひ會員の數また加はるに至りしかばこゝに其發會式を擧げ兼て第一回の總會を開くに至りぬ今や四海の波靜かなりといへども風雲の變化は測るべからずよろしく平和の今日より互に相勵みて本會の爲盡さむ事を務むべしいさゝか思をのべて祝詞と爲す

愛國婦人會長崎支部幹事　演武龜代

祝辭

勇武なる軍隊の後背には必ず勇武なる國民の之に伴はざるはなし國民勇にして軍隊獨り怯弱なるは吾未だ嘗て之を聞かざる所なり而して國民を勇武にし其元氣勢力を養成するは實に婦人の責任に屬し婦人の天職に在ることを忘るべからず吾愛國婦人會は實に斯の責任を盡し斯の天職を完ふせんが爲に生れたり故に本會の期する處は一朝國家に事あるに當り忠君愛國の將卒をして彌が上にも忠君愛國の實を擧げしめ出ては之をして後顧の憂ひなからしめ入つては之に慰藉安心を與ふるに在り本日本會支部の發會式を擧ぐるに當りかしこくも總裁殿下より懇篤なる御諭旨を賜はり以て會員を獎勵し給ふ吾鄕會員たるもの誰か感銘せざるものあらん今より庶幾くは御諭旨の意に服膺して上は陛下の國家に對し率り下は婦人の職責に鑑み勤儉精勵性を養ひ嘗を寡くし理を窮め身を修めて以て國民の元氣を鼓舞し以て軍隊の勇武を發揚し以て本會の美名長久ならんことに勉むべし聊か思ふ所を記して祝辭に代ふ

愛國婦人會支部幹事　石橋衆子

詠

愛國婦人會の發開式を祝ひて

あろけふのまとゐをはじめにて
ともにつくさむ國の御ために
國のため盡すこゝろの花の香に
とつくに迄もかをり行らむ

愛國婦人會長崎支部幹事　山本毬玖子

◎奥村刀自栃木群馬地方遊説日記（承前）

六月四日　山田縣屬の案内にて夫の七名の有志婦人（荻野氏病氣の爲め七名なり）と共に午前十一時廿六分足利驛を發し同五十分佐野町に着す、郡長町長郡視學警察署長及び郡立町立學校の女教員生徒等停車場に出迎はれたり。郡役所にて暫時休憩し、隣家なる川田旅館にて晝餐を喫し、午後二時半より町立佐野小學校に於て開會す。中森郡長の賛成演説について刀自登壇す。聽衆五百餘名、即時入會者三十餘名。午後五時四十分閉會せり。夫の七名の婦人は終始斡旋せられたり。同六時半佐野驛を發し同七時八分栃木町に着す。郡長警察署長町長及び本會幹事吉屋政子中島とみ子等十三名の外栃木婦人協會幹事平岩幸吉氏等出迎はれたり。此夜吉屋郡長の周旋にて光陽館に投宿し頗る鄭重なる待遇を受けたり。

同　五日　早朝より櫻井町長白澤郡書記平岩栃木婦人協會幹事の案内にて栃木太平山神社に參詣し、同公園にて晝餐を喫す。又々足利町の會員渡邊はん子、岩根つな子、荻野とせ子、原田ゆき子の諸氏援助として來り會せらる。午後三時より栃木小學校に於て開會、聽衆一千餘名にして即時百餘名の入會ありき。吉屋支部幹事櫻井町長〱平岩栃木婦人會幹事等非常に盡力せられたり。

同　六日　午前八時半栃木驛を發し群馬支部に向ふ。郡長町長町有志者其他學校職員生徒等見送られたり。又山田縣屬及び平岩幸吉氏は同行して前橋迄出張せられ、足利驛にては本會員渡邊はん子、猪狩るゐ子、武居つる子、岩根つな子の四氏援助の爲一行に加はれたり。是より先荻野とせ子、足利かず子、原田ゆき子の三氏は前橋市に出張して知己を勸誘せられたり。同十一時三十分前橋驛に着す。幹事長忌引中に付き代理として青木書記官夫人出迎はれ、其の他原警部長夫人津金支部事務員、田村よね子、野中彌知子、高橋たつ子、外有志者數名出迎はれたり。同市本町白木屋旅館にて晝餐を喫し、青木書記官原警部長の兩夫人の案内にて會場たる縣會議事堂に至る。午後二時より開會、書記官夫人開會の趣意を述べられ、次て野中彌知子登壇演説、終つて刀自演説す、聽衆八百餘名、即時四拾六名の入會者ありき。知事書記官參事官視學官各學校職員生徒及び市の有志家等聽衆の主なるものなり。又今回開會について、特に盡力せられたるは阪東新聞社主大島氏、田村よね子、野中彌知子、清水警視及び足利町の荻野、足利、原田、武居、猪狩、岩根、渡邊の七會員にして、殊に此七氏は今日に至る迄四日間始終奔走斡旋せられたり。

同　七日　午前七時廿五分前橋驛を發し埼玉支部に向ふ。幹事長代理青木書記官夫人原警部長夫人幹事長令孃參事官夫人視學官夫人清水警視其他會員數名見送られたり。又津金縣屬は本庄驛迄、田村よね子、野中彌知子兩氏は浦和町迄見送られたり。同十時五十分浦和町に着す。馬場副幹事長平野陸軍少佐夫人倉岡警視夫人等出迎はれたり。一同の案内にて木下知事邸に到り、當日は同邸に宿泊することゝなり、鄭重なる待遇を受けたり。木下支部長は是より先き職員を督勵して入會者の勸誘に盡力せられたるにより、今日迄會員一千餘名贊助員數百名を得たりと云ふ。午後二時より埼玉高等女學校にて開會、刀自の演説は例により二席に分ち休憩中女學校女教員生徒の音樂あり唱歌は（マルセーユの曲決死の士）午後六時半閉會、子爵夫人細川同子、馬場警部長、平野町長（陸軍少佐）其他高等官有志家女教員等無慮四百餘名の來會者ありき。今回遊説に際し谷口落合地田の各支部員倉岡警視同夫人平野少佐同夫人町長其他各警察署郡町村役所員等非常に奔走せられたる結果、前記の如き會員を得たるなりと云ふ。

同　八日　午前八時半浦和發川越町に向ふ。平野夫人倉岡夫人は案内者として同行せられたり。荒川上郷橋にて出迎の植村郡視學夫人早川郡書記川越町長代小倉讓三氏に出會し導かれて川越町今福屋に投ず。午後二時より島崎郡長中井町長鈴木警部諸氏の盡力にて同町川越館に於て開會す、聽衆五百餘名即時數十名の入會者ありき。

同　九日　午前八時川越町を發し熊谷町に向ふ。郡長町長警察署長等見送られたり。上尾驛より汽車に投じ同十時五十分着。上尾驛には大宮警察署詰巡査關口巳三郎氏一行を待ち受け周旋せられたり。此人は今回五十餘名の入會者を紹介したる人なり。熊谷驛には會員平井しづ子、坂井はる子、諸氏及び樋口郡書記等出迎はれたり。清水旅館に入り午後二時より蓮生山熊谷寺に開會す、聽衆五百餘名即時五十餘名の入會者ありたり。今回出張につき幹事長は郡役所員警察署員をして奔走せしせられしかば、當町にて特別會員四十三人、通常會員二百八十八人、贊成員百三十五人を得、支部全躰にて千二百餘名の入會者ありたりと云ふ。

同　十日　午前八時出發歸京の途に上る。浦和驛に於て木下幹事長は令息夫人並に谷口縣屬を以て刀自に珍品を寄贈せられたり、同十時五十分無事上野に着す。

（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎栃木支部足利郡の現況

去る六月三日、本會奥村主唱者、事務員龜岡豊縁氏を隨へ、栃木支部事務員山内種樹氏を伴ひ、當足利町停車場に着せらるゝや、當郡内重立てる會員拾數名、及び富田足利郡長、中津川足利警察署長、長足利町長等は、部下吏員と共に女史の一行を出迎へ、豫て準備せる會場鑁阿寺に案内したり。會場に於ては、郡役所吏員及び會員中の有志者と共に、諸事を斡旋し、やがて午後一時に至り、開會を告ぐるや、女史は非常なる熱誠を以て本會設立の旨趣、並に清韓の實歴談、我國婦人の大に力むべき義務など詳細懇切に演説せられ、滿場の聽衆大に感動し、即時入會申込者少からず、爾後引續き申込みありて、現時會員の總數百八十名に達しぬ。

越えて去る七月二日、本會岩倉會長閣下より、左の諸氏に幹事を囑托せられたり。

猪狩るい　近藤てい　武居つる　増澤とみ　岡島こと　岩根つな
植松千代金　荻野とせ　岩下こう　原田たか　足利かず　中津川よし
長こと　相場せき　關田けい　阿田葉こう　渡邊はむ

右幹事の囑托ありしを以て、同月九日足利郡役所樓上に於て、第一回幹事協議會を開けり。富田足利郡長を座長に推し、長町長も亦列席して、左の如く幹事申合せ內規を協議決定せり。

愛國婦人會足利郡幹事申合內規

第一條　足利郡幹事事務所ハ當分ノ內足利郡役所內ニ設置ス
第二條　各幹事ハ隔月一回事務所ニ會合シ本會ノ主旨遂行及擴張上ニ付協議打合ヲ爲スモノトス
幹事協議會ノ座長ハ常務幹事中ノ一名之ニ任スルモノトス
第三條　本郡內ニ於ケル會務ヲ處理スル爲各幹事中ヨリ常務幹事三名ヲ互選ス
常務幹事ノ任期ハ六ケ月トス
第四條　常務幹事ハ庶務及會計ヲ擔任シ幹事協議會ヲ開閉ス
第五條　本事務所ニ員外顧問及事務補助員ヲ置ク
員外顧問ハ幹事協議會ノ決定ニ依リ事務補助員ハ常務幹事ノ協議ニ依リ囑托スルモノトス
第六條　本事務所經費豫算ハ幹事協議會ノ議決ヲ要シ其決算ハ幹事協議會ニ報告スルモノトス
第七條　本郡會員總會ヲ開クノ必要アルトキハ幹事協議會ニ於テ其時期及場所ヲ決定スルモノトス
第八條　各幹事ハ協心戮力本會ノ事務ニ貢獻スルト同時ニ勤儉實業ヲ旨トシ和衷親睦ヲ重ンズルヲ要ス

次に常務幹事三名互選せしに左の三名當選せり
武居ツル　中津川ヨシ　長コト
次に員外顧問に左の諸氏を煩すことを決す
富田嘉則　中津川秀太　長祐之
次に事務補助員は左の兩氏に依賴せり
中山敬鄕　長一

次に會員募集の方法等を協議し、偏く郡內重立者の妻女に入會勸誘を務むる等を協議し、尙次回を期し散會したり。

（愛國婦人會栃木支部足利部報知）

◎篤志者の寄附

東京市下谷區谷中三崎町拾番地に住める、休職臺灣總督府醫院長從六位醫學士山口秀高氏は、此度先考の遺志により、金五拾圓を本會に寄附されたり。氏の考は山口三郞と稱し、備後の人、若冠にして長崎に遊び、醫學を修む、業成りて後江戸に出て、醫を業とす。居ると六七年漸く資財を蓄積す。時に嘉永癸丑の年、米艦浦賀に來る、是れより天下騷然たり。翁大に時事を慷慨し、自ら資財を散して四方の志士と交れり。文久の初年に及び、淸川八郞氏等と天下の浪士を集めて黨を結び新徵組と名づく、幕府中山信安氏（評議員中山幸子氏の亡夫）に命じて之を監督せしむ、其後幕府新徵組を庄內藩に屬せしむるに當り、翁は其藩士に列す、皇政維新の後に至り、翁復世事を顧みず、讀書閑吟以て餘年を送れり。明治三十五年秀高氏獨逸なるフライブルヒ大學に遊び、眼科學を專攻せんとするに當り、翁たまく〜病篤し、秀高氏發程を躊躇す、翁曰く、好機逸すべからず、速に出發して硏鑽を積み、以て國家に貢獻せよ、老軀の病焉ぞ意に介するに足らんと、翁の氣象槪ね斯の類なり。今年七月終に病みて逝く、享年七十歲なりき。翁生前深く我が愛國婦人會及び婦人共立育兒會の旨趣を賛せり。是を以て、翁の逝くや秀高氏其葬儀を節し、本會と育兒會とに各金五拾圓を寄贈し、以て其遺志を繼げりとぞ。

雜報

◎華族女學校卒業式　華族女學校にては去十六日卒業證書授與式擧行に付、皇后陛下には豫て仰出されし如く午前九時三十分御出門同十時同校へ着御「君が代」奏樂中に職員生徒一同の奉迎を受けさせられたる後細川校長御先導にて樓上便殿に御休憩、同十時三十分 陛下には供奉員一同を隨へさせられて式場に臨御あらせらるゝや生徒一同唱歌を合奏し、次に細川校長より全科卒業生四十四名別科卒業生三名に夫々證書を授與し、次に中小學各級及第生徒總代に證書を授與し、次に校長式辭卒業生總代の謝辭及び生徒一同の秋の宮居の唱歌あり、畢て 陛下には再び便殿に入御あらせられ、續て來賓、參觀人、生徒等一同退場の後 陛下には君が代奏樂中に諸員の奉送を受けさせられつゝ還啓仰出されたり。卒業生人名左の如し。

▲全科卒業生

岩原慶　小川しげ　松平經子　岩崎奈美子
長田絹子　久我靜子　伊東千代子　渡邊鶴子
小坂はる　市來愛子　川田鈴子　阿部織羽
池田銀子　吉川馨　佐々木康　池田吟
吉田浦子　坂田清　石川その　高木寛子
四條季子　庭田給子　津田富子　首藤さわ
四邑仲子　中田登美　平山淸　新山婦美子
中野文　本尾芳子　堀江登志　上野笑
守屋きく　鹽住しほ　桑原きみこ　毛利花子
土岐靜子　山脇鎭　毛利すみ　千頭たか
山本きよ子　鈴木操　太田壽々　安井藤江

▲別科卒業生

大山久子　立見もと　島田梅子

◎江木夫人其他の篤志　江木前本縣知事は熊本縣知事に轉任、明十三日午前八時九分廣島驛發汽車にて出發赴任するに付、同夫人には留別として藝備婦人慈善會へ金五圓並に篤志看護婦人會へ金十圓寄贈。又第十一聯隊第二大隊長能美中佐は第二十四聯隊へ轉任、來んて十五日頃出發の豫定に付、同夫人は留別として藝備婦人慈善會へ金二圓寄贈、因みに記す、江木夫人は本紙屢々記載したる如く去ぬる明治三十四年藝備婦人慈善會を創立し慈善事業に盡力したること尠からざりしが、一昨十日三橋書記官並に同夫人其他の高等官並に夫人立會の上にて藝備婦人慈善會の引繼を了したりと、尙同日江木夫人は廣島育兒院を見舞ひ孤兒に菓子抔惠與したりと。（廣島新聞抄出）

◎十一歲の孝女　埼玉縣北葛飾郡松伏領村大字上赤岩の飯島和三郞の長女みき（十二）といふは、去にし二十八年一月より、同縣南埼玉越ケ谷在大相模村大字東方百二十二番地農中村なかの養女となり、行々は同人長男金太郞（十才）の嫁と定められしに、同家は元來血統よろしからず、金太郞は其頃より聞くも忌はしき癩病を發して外見醜くなるのみならず、三十年中には床に就くに至りしより、母なかの心配いはん方なく、さまく〜に手を盡して介抱する中、あはれやなか自身も癩病を發して親子共に枕を並ぶるに至りぬ。此時みきは八歲の幼女なりしが嫌厭はしき顏もせず、二人の癩病人を左右に置きて、藥取の使より食事の世話汚れ物の洗濯まで、看護婦も及ばぬまで取賄ひけるに、一昨年十二月五日金太郞は遂に死亡せしにぞ、母の悲みは一方ならず、ために病も重りたるより、みきは一生懸命になり、是非共母の命のみは助けたしと、或は慰め或は勵まし夜の目もあはぬまで看護せるが、數年の座食に近來は家計も覺束なくなりしより、みきは看護の暇に繩を綯ひ繭の糸挽をなして之を補ひ居るを、實父母は見兼ねて夫とすべき人も已に亡くなりし事なれば、此方に歸りては如何と勸めしかど、恩あり義理ある病人を此まゝにしては措かれずと應ぜざる樣、十一歲の少女とは思はれずとぞ。されば、近隣の人々も皆嘆賞し越ケ谷警察署長淺見勘助氏も事實を取調べて具申したるより、去月二十日木下埼玉縣知事より、みきに金五圓を下賜して、其善行を賞したりとぞ。

◎感ずべき老媪　芝櫻田久保町四番地士族中村春（六十）は、幕臣中村冬太郞の妻なりしが、明治六年夫に死別れし後は、上記の處に寡居して、偶々再嫁を勸むる者あるも之に應ぜず、只管婦人の貞操を守り、賃仕事をもて、其日の活計を立つる暇に同女は幼年其父より漢學を授けられて一通りの經書は學びたれば、其界隈の貧民の子弟が學資なくして就學し得ざるを憐み、過ぎし廿六年六月以來十年猶ほ一日の如く近傍の貧子弟を集めて、每日午前七時より午後二時迄、無報酬にて習字作文等を授け、目下現に六歲以上十二歲未滿の男女二十人を集めて、深切に教導し居るとぞ、左れば其筋にても春が篤行を嘉し、近々行賞の沙汰あるべしとなり、實に感ずべき老媪にこそ。

◎獨逸皇族日本を懷ふ　去る十七日加奈太へ御到着相成りたる獨逸皇族ルプレヒト殿下並に妃殿下は、同地より在本邦同國公使へ電報を以て然るべき方法に依り御滯在中に於る本邦官民鄭重の款待に向て熱心なる感謝の意を表すべき旨御下命あり。尙妃殿下には優美高尙なる我國婦人の風俗今尙ほ眼に映じて消ゆることなきを以て御携帶相成りたる和洋折衷の婦人裝飾品指環袋物類六十餘點は殊の外御意に叶ひ、同一のもの各五種宛を玉寶堂に命じて本國へ回送せしめ置くべき旨御依囑相成りし由。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎旅行には必ず寶丹を懷中すべき最近實例

曩きの日無事歸朝せられたる河口慧海師は彼の秘密國なる西藏に於ける苦心慘憺の旅行中屢々寶丹に由りて、生命を全うせられたることは載せて時事新報（明治卅六年五月中より同師の談として引續き掲載）にあり同紙購讀諸君は疾に諒知せらるゝ所ならん、又去四月汽車衝突の際外國婦人の氣絶されたりし時、直に回生せしめたる事實あり（大坂毎日新聞掲載）然るに今又左の報道に接せり、开は、左に記する事實によりて明なりとす、此れと云ひ彼と云ひ寶丹の應急救生に奇効ありし特報頻々たり、斯の如きはもと拙家一個に關する事に過ぎざれども、我國民の深切に富ると、其藥効の特殊に感じたるの一例に至りては、聊か自負するに似たりといへども、亦以て起死回生の効空からざるを證するに足れり、故に謹で寶丹愛顧の諸彥に稟告す幸ひに此意を亮了ありてますます光顧を賜はらんことを希ふと爾云

東京市下谷區池之端仲町廿七番地
寶丹本舖　十世　守田治兵衛

前略扨突然に御座候へ共沓谷瀧次郎儀過日來博覧會の爲め大阪へ出張致居候處昨夜幸便にて左の如く申越し候間不取敢御通報申上候

本月十一日午前七時三十分新橋汽車に乘込候處、一外人と米原驛まで同車致し候處、同外人義東京出發の際より、非常の腹痛にて氣分惡く殊に氣閉ぎ候て困却の由被申聞辨當も不喰好きな烟草も呑まずと申居候よし（至つて日本語通のよし）瀧次郎義幸ひ旅行用に致し候寶丹を同人に服用被致候處途中に於て寶丹の效能著く忽ち全快致し候に付同外人殊の外喜悅此上なき由同人は米國人にて今般歸國の途中の由に御座候猶右寶丹にて全快致候御禮の印として米原神戸間の無料乘車券を申受候由實に不相替寶丹の效能數萬なるも、眼前に於て一外人を救助したる故に瀧次郎事も驚入申候、早速前條貴家樣へ申遣し度と申越候に付き不取敢御通報申上候間、何卒御了承願上候、寶丹の效能に對しては細事なりとも、海外人を汽車中にて救助致し候儀故何卒御營業上御參考の端にも相成候へば重疊と存上候、決して空言に無之實際に御座候、實に弊家にても寶丹愛用者に付一同大悅に存居候、先づは不取敢前條申述度如此に御座候匆々敬具

尚右之寶丹は去月中小生大阪へ出張の際事務員其外へ進呈致し候爲に十五錢の口分寶丹四十個貴店に於て相求候分の殘餘に在之候間爲念申添置候也

第卅六年六月十九日　美術袋物商　島本德兵衛拜
守田治兵衛樣　貴下

尚寶丹益々海外へ輸出に相成候事疑ひなし

東京鐘ヶ淵病院長橋本善次郎先生著
（新刊）**衛生一夕話**

本書目次　衛生とは何ぞや○體溫○空氣と呼吸○營養分○飲食物○食事衛生○飲酒及喫煙○衣類及寢具○日本服改良の要點及履物の欠點○住地及家屋○運動及睡眠○濕浴及冷浴○海水浴及海氣浴○學校衛生に關する個人の注意○家畜と衛生○花柳病の感染及後害○結婚及遺傳○肺結核の蔓延及豫防○流行性傳染病の個人豫防

洋裝全一冊　紙數百五十頁　定價金卅五錢　郵稅金六錢

大好評　法學士 持地六三郎先生著　▲**經濟一夕話**（寫眞版八枚入菊判洋裝全一冊）定價卅五錢　郵稅金六錢　四版發行

（新刊）横井玉子女史著　**家庭料理法**

三度々々の食物を安く甘く且つ輕便に味はんとするには、一通りの料理鹽梅を心得置かざるべからず。本書は故横井玉子女史が多年の經驗上より、四季折々の日本料理、西洋料理、もしくは折衷料理など、有合せの器具にて購ひ易き原料を用ひ、好むがまゝに試み得べき最も輕便なる諸種の調理法を、極めて親切に通俗に詳記したるもの、固より坊間濫出の料理書類とは其選を異にす、蓋し一般家庭に於ける厨の實典也。

上製　金六拾錢　郵稅　金拾錢
並製　金四十五錢　郵稅　金八錢

●下田歌子先生著　**家政學講義**　定價金四十五錢　郵稅金六錢（第三版發行）

東京神田裏神保町　**冨山房**

婦人界　七月一日發行　第二卷第二號　定價廿錢　郵稅二錢

口繪　梶田半古筆「培ひ」額面用石版極彩色

遊戲問題　社會欄及家庭談

吉村寅太郎●鶯山彌生子●佐藤愼太郎●兕翁●井口あぐり子●奇峯生●桃葉女史●平尾不孤諸氏の卓拔なる意見趣味ある文章を載す

公使の夫人……千葉紫艸
外國の禮式に就て寺屋村朔北
老婆と少女の自殺及び他殺（上）……内山懐夫
其の他數篇あり

後藤新平▲竹越三叉▲佐々木博士▲大岡育造▲澁澤榮一諸氏の家庭談

家庭欄
蟬の話＝富益農學士●絹の話＝井上農學士●評釋戀の重荷＝鈴木文學士●春や昔＝森しづか●笠置落＝泣菫●書法の話＝小杉博士●密蜂の話＝さなへ生●鯉料理●素人料理

附錄
婦人問題雜感……横井時雄
婦人の勇氣と儉德　池田樂眞子

次號の附錄
新夫妻……德田秋聲
里がへり……米光關月
湖畔の家……生田葵山
小品數種……國木田獨歩
母を懷ふ……齋藤吊花

發兌元　東京本町　**金港堂書籍株式會社**

第三卷第七號　七月十五日發行

をんな

毎月一回十五日發行　毎號紙數百四十頁　定價十五錢全國無遞送料

本誌の特色

◎本誌の目的は、婦人をして常識に富み、世態に通じ、以て其本分を完うせしめんことを期するに在り。されば其所説、新に流れず、舊に泥まず、一宗一派に偏らず、而も世に阿りて、徒らに俗流の歡心を迎へず。◎本誌は輕佻浮薄の弊風を避けんが爲に、表紙口繪など、不要の裝飾を省きて、專ら記事の精選を努む。◎本誌に收録する所は、普通の婦人雜誌に掲載する、文學上家政上の記事のみに止めずして、●科學の大意を掲げて、學理の概念を得しめ、●和漢洋名著の綱要を掲げて、諸書の渉獵に便せしめ、●法制理財等の事を平易にものして、世態に通ぜしむ。◎本誌は、野卑なる言語及び劣等なる戀愛文字を避け、下品なる廣告を掲げず。◎本誌は勸儉貯蓄の美風を獎勵せん爲に、毎號恙着貯金切手を附して、其模範を示す。◎本誌讀者は、みやび會員となり、其歌・文を本會に送附して、名家の批評添削を受くることを得。

發行所　麹町區下二番町三七　電話番町（一三三〇番）　**大日本女學會**

醫院案内

院長　醫學博士　ドクトルメヂチーネ　榊順次郎
婦人科産科榊病院　東京麹町三番町卅三　電話番町三百九十五　診察午前　入院隨時

●**水原産科婦人病院**
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百○九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

耳鼻咽喉科院　院長　ドクトル　**山上兼輔**
四谷區本村町三十七番地（士官學校前）電話番町七三○
診療時間　毎日午前八時より十二時迄午後六時より七時迄○日曜大祭日は午後休療往診の需に應す

東京小兒科院　駿河臺西紅梅町（電話本局一九五五）
院長　醫學博士　**瀨川昌耆**

東京産科婦人科病院　神田駿河臺袋町（電話本局壹四三四）
院長醫學博士　濱田玄達
副院長醫學士　辻高俊

内外科泌尿生殖器科
醫學博士 佐藤進　醫學士 佐藤佐　同 佐藤恒久　同 佐藤達次郎　醫學博士 田中茁太郎
醫學士 阿久津三郎　醫學士 吉井明七郎　醫局員 菅野徹三　同 前田利雄　同 笠間大作
各科專門ノ醫士分擔シテ診療ニ從事ス
毎週月水金午後一時ヨリ貧困者ノ爲メ施療部ヲ設ク

順天堂醫院（本郷區湯島五丁目お茶ノ水）電話本局三六九番

◎◎**最新療法**◎◎
瘰癧　切開ヲ要セスシテ根治ス　○心臟病　○脚氣　專門
千葉内科院　神田區三崎町三ノ一　西通リ二十五

診療　院長出診時土曜日午後、入院診斷之上隨時應需
内外科眼産婦人科耳鼻咽喉科皮膚病梅毒痳病
外來入院隨時　深川平久町角　深川　**養生病院**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十六年七月二十五日發行(毎月十日廿五日二回)

◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區銀座四丁目

本店 東京日本橋區長谷川町貳番地
御卸部 美濃磯本店
電話浪花二八五九
電略ミイツ

小賣部

本郷區本郷五丁目十五 電話下谷二四一五 美濃磯本郷支店

浅草諏訪町廿貳 美濃磯浅草支店

芝區新櫻田町九番地 ㊤小田商店

牛込神樂坂町二丁目八 ㈹伊澤商店

四ッ谷傳馬町二丁目 ㈹伊澤支店

全國各學校徽章賞牌ハ弊店ノ獨專業ニ有之候 價格表ハ御報次第呈送ス

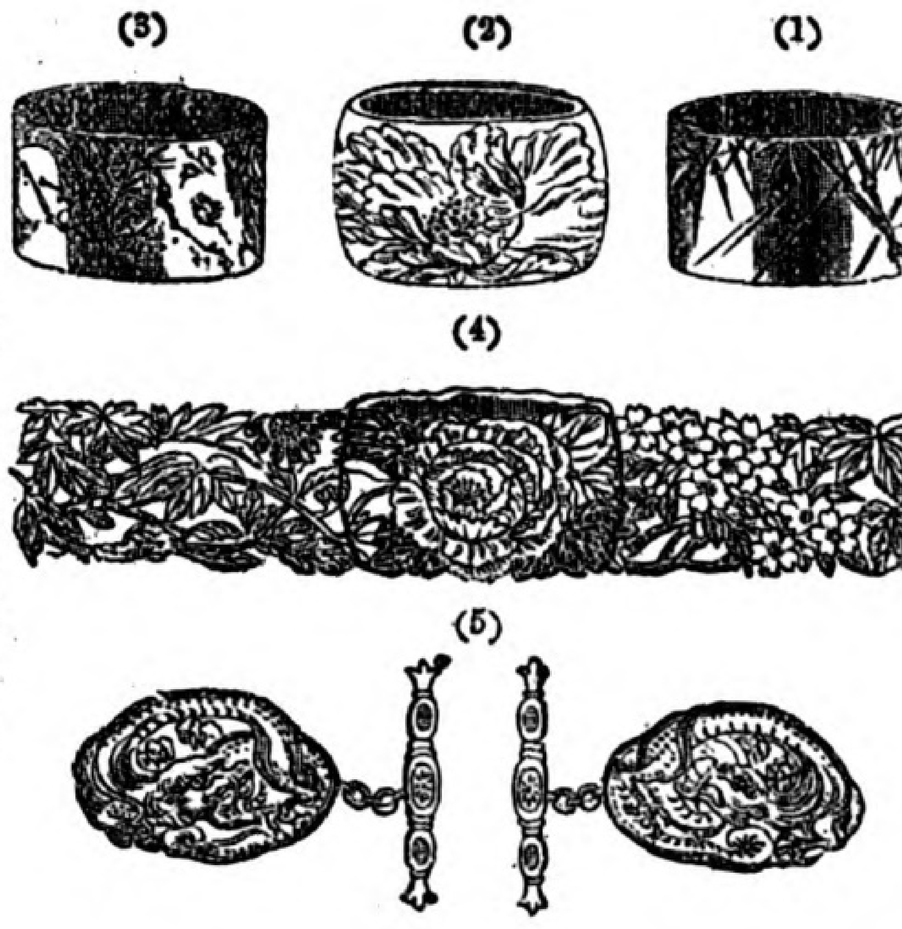
日本帝國徽章商會

東京市麹町區飯田町三丁目 電話番町八百五十七番

麝香獸印 ムスク香水

本石町四 芳香藥種問屋 松澤商店

新製指環及手釦



(1)價廿一圓八拾錢……廿二金三匁付片切刻
(2)價廿七圓八拾錢……同……高刻
(3)價二拾圓八拾錢……同……片切刻
(4)價五拾六圓五拾錢……同四匁付……高刻
(5)價卅二圓九拾錢……十八金三匁付高刻

時計寶玉貴金屬美術品及銃砲火藥商 東京市京橋區尾張町貳丁目拾六、七、八、九、番地 天賞堂 電話新橋(特三三三)(一五三三)

天賞堂出張所々在地 東京市神田小川町 横濱市 名古屋市 大坂市 廣嶋市 熊本市 長崎市 小樽市

紳士貴婦人用 高等香油 チェリーオイル

定價 大瓶八十五錢 中瓶四十五錢 小瓶二十五錢

東京市日本橋區本町二丁目十五番地 日本直輸入元 高橋初次郎 (特電話本局四一二三番)

●全國到る處の小間物化粧品賣藥店に販賣致居候

諸學校女生徒の寄宿に應し夜間英語を教授す

近藤女子監督家塾

東京市小石川區春日町四十三番地

愛國婦人廣告取扱

博報堂 神田區千代田町 電話本局一四四番

弘報堂 京橋區尾張町 電話新橋八五一番

一星社 京橋區八丁堀中町

萬年社 日本橋區上槇町 電話本局一一一五

婦人最良藥

子宮病血の道 產前、產後の諸症にて種々の藥を用ゐて其効なく久しく病床に苦しむ人は本劑を試みよ

●如何なる難病も二三週間に全治す

●詳しき効能は大廣告の時御注目ありたし

(定價 一日七錢五厘、三日廿錢、一週四十五錢 二週八十五錢、三廻り一圓二十五錢)

●本舗へ御注文の方は病人の容躰御申込あれ

本舗 東京日本橋通四丁目 津村順天堂 大阪堺筋鹽町北入 津村順天堂

中將湯は全國各藥店にあり

生徒募集

本校豫科及乙種師範科生徒を募集す入學志望の者は入學願書に履歷書及戸籍謄本を添へ來る八月廿日迄に願出づべし

但募集人員及入學手續等は六月六日官報廣告欄にあり●規則書を要する者は郵券二錢を添へ本校に申出ずべし

明治三十六年六月

東京音樂學校

東京名物 澤庵大安賣 土用越保證七升樽正味 壹樽金壹圓七拾錢 市內配達無料御注文次第直に御屆致升

輸出漬物商 松島商店 東京市日本橋區鐵砲町廿四番地

薪炭兩用 富貴竈 專賣特許

第五回內國勸業博覽會 三等賞牌受領

●本器は世間在來改良竈の不備の點を悉く完備したる構造にして製作の精良堅固なること無比なり眞價は實驗にて知り給ふべし

●說明書御一報次第進呈す

●販賣店は全國到る所にあり

○營業品一斑

輕銀 アルミニューム製食器

アルミニューム製食器は高尚優美にして衛生に適し經濟なる美術的器具なり

此外舶來琺瑯引器具及鐵瓶湯沸銅鐵物

東京淺草區茅町淺草橋際(電話下谷一九二三) 發賣元 阿部彥四郎商店

代理店 大阪市博勞町四丁目 万年九平 横濱市吉田町一丁目 內田甚兵衛

第五回內國勸業博覽會 受領 第貳等賞 第參等賞 襃狀貳通

營業販賣品目 半ゑり 帯あげ 下締 帯止 浴衣

すゝめ形 ゑり治形 まげ入ゑり治

新橋竹川町十二 電話新橋二〇二七

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 大日本女學會内

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第三十四號附錄

明治三十六年七月廿五日發行（每月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 大日本女學會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

評議員
男爵松平正直夫人松平須磨子

宮崎縣支部幹事長
宮崎縣知事岩男三郎夫人岩男飛佐野子

京都支部幹事
廣瀬宮子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN